

次世代につながる園地づくり研修会の概要

令和7年3月10日(月) 13:30～
果樹研究センターみかん研究所及び現地

【研修内容】

(1) 室内研修

- ① 災害に強く省力化に対応した園地づくりとして、簡易園内道の整備を推進するとともに、早期成園化や省力化に向けた園地管理について説明
- ② 災害に強く小規模な園地整備として、水食防止工等の役割や効果について説明

(2) 現地研修

- ① 省力化に対応した園地づくり事例として、あぜ板を使った簡易園内道の実証状況を確認
- ② 早期成園化優良事例として、今年度から収穫が始まった改良復旧園地【河内地区】の取組状況を確認



【あぜ板を使った簡易園内道】



【改良復旧園で早期成園化のポイントを確認】

【参加した農家の主な反応等】

- ・ 水食防止工はぜひ実施したいと考えており、石積み園地やスプリンクラー整備園での対応が可能か危惧しているとの質問があり、多様な方法が考えるため、積極的に相談するよう回答
- ・ あぜ板を使った簡易園内道について、安価に自主施工できるメリットがあり園地の傾斜など状況に応じた対応を心掛けたいとのこと。
- ・ 早期成園化優良園の園主が、園地管理のポイントとして、植付前の土づくり（バックホウによる耕起、石灰資材散布）と植付後の基本的な管理（芽かき・摘心、液肥散布）の徹底が重要とし、改良復旧園において植付後2年半程で1.5～2.0 t / 10aのみかんを収穫したことを聞き、感嘆していた。